

事例4

< 事例概要 >

肺動脈カテーテル縫込み

- ① 70 歳代、男性、身長160 cm台。僧帽弁閉鎖不全症、肺高血圧症の患者。僧帽弁形成術、三尖弁形成術施行。抗血栓薬の使用は無。
- ② 右内頸静脈より肺動脈カテーテルを挿入し留置。
- ③ 術中、下大静脈カニューレ挿入部、右側左房切開部、右房切開部、左房・左室ベントカニューレ挿入部、上大静脈カニューレ挿入部に糸掛けを行った。Waterston溝の剥離中に右房側を損傷したため縫合したが、目視による確認が困難な部位であったため外科医は肺動脈カテーテルが縫込まれていないか触診で確認。閉胸前に縫込まれていないか確認するために、麻酔科医は肺動脈カテーテルを2～3 cm動かし、外科医は肺動脈カテーテルの可動と上大静脈カニューレ挿入部、右房壁の縫合部に引きつれがないことを確認。
- ④ 術後1 日目、集中治療室で肺動脈カテーテルを抜去直後に動脈血圧低下、ドレーン排液が増量。緊急開胸止血術でWaterston溝に損傷を認め縫合閉鎖。術後、重篤な脳虚血障害が回復せず、手術から約2 週間後に死亡。
- ⑤ 死因は、右房壁損傷による出血性ショックを契機とした多臓器不全。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。